

	診療機能の特徴						課題	今後担うべき役割	具体的な計画										診療科の見直し等	基金の活用
	現状								2017年(平成29年)					2025年(平成37年)						
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	内容			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床		
琵琶湖養育病院																				
堅田病院																				
琵琶湖大橋病院																				
琵琶湖病院																				
ひかり病院																				
山田整形外科病院																				
打出病院																				
琵琶湖中央病院																				
滋賀里病院																				
瀬田川病院																				

(参考)公的医療機関等2025プラン

	診療機能の特徴						課題	今後担うべき役割	具体的な計画										診療科の見直し等	基金の活用				
	現状								2017年(平成29年)					2025年(平成37年)										
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	内容			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床			今後の見込み	内容	内容	
大津赤十字病院	○	○				①高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、基幹災害拠点病院など地域の中核医療機関として高度機能を有する基幹病院 ②5疾病・5事業に積極的に取組	・他の急性期病院に比べ平均在院日数が長い傾向にあるため、スムーズな退院のための支援強化や後方医療機関との密な連携が必要	①救急医療:「急性期医療の砦」としての役割 三次救急患者の受入れ促進/救急隊員等育成の充実 ②地域医療:大津市医師会との「病診連携システム」推進・開放型病床の運営・検査機器共同利用 地域の医療従事者公開研修会 大津地域小児救急医療支援事業の充実 ③がん診療:県下全域にわたる地域連携推進 ④災害医療:基幹災害拠点病院としての役割 原子力災害拠点病院としての役割 各種訓練の実施 関連機関と連携した教育・研修の企画・運営	691	49	41						691	49				①高度急性期、急性期医療を担う ②公的医療機関として政策医療を担う ③退院支援や在宅療養支援の充実	将来(2025年度) ・(新設) 救急科、緩和ケア科 ・(変更・統合) 神経内科 ⇒脳神経内科 歯科・歯科口腔外科 ⇒歯科口腔外科	
滋賀医科大学医学部附属病院	○				○	①地域医療を担う中核病院 ②高度急性期・先進医療を推進する特定機能病院 ③5疾病・5事業・在宅医療への貢献 ④難病、アレルギー疾患への対応 ⑤周産期医療体制における他機関との連携体制強化 ⑥人材の育成(国立病院機構東近江総合医療センターや東近江市、地域医療機能推進機構(JCHO)と連携。総合診療を行う医師を養成。)	①大津圏域では高度急性期病床の余剰と近隣病院との機能の重複があるため、機能分化の検討が必要 ②県全域から多くの患者を受け入れているため、高度急性期病床の集中も選択肢の一つ	①大学病院の特性を生かし、県内の医療機関が対応できないところをカバーし、高度循環器疾患、小児、周産期、精神疾患の合併症をもった救急患者を受け入れ、高度な医療を提供 ②県内唯一の大学病院としての人材育成機能を発揮 ③総合診療医や地域医療を担う医師の育成において、地域医療教育研究拠点に係る活動拠点を県下の他の圏域に拡充し、医師の偏在に対応	569								569					①大津圏域では高度急性期病床の余剰と近隣病院との機能の重複があるため、機能分化の検討が必要 ②高度急性期、急性期、回復期、慢性期の各機能が必要な疾患別の解析を行い、これに応じた病床機能分化の検討が必要	未定	
市立大津市民病院	○	○		○		①急性期医療の提供が中心 ②へき地医療を除く5疾病・4事業に対応	①地域の医療需要に見合う病床の適正化 ②人員の適正化 ③医師や看護師の生産性向上 ④夜勤のできる看護師の確保 ⑤人件費や職員の採用など、経営上の課題	①へき地医療を除く5疾病・4事業に対応 ②地域医療支援病院として急性期医療を中心に提供 ③かかりつけ医を推進、スムーズな紹介・逆紹介を展開 ④神経難病病床、緩和ケア病床の運営	6	391					8	425					①病床数の最適化を探りながら急性期病床を維持 ②神経難病病床、緩和ケア病床の維持	未定		
独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院		○	○			①急性期が中心。回復期(地域包括ケア病棟)も担っている ②がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に対応。年間200名の透析治療	①人材の確保(そのため総合診療の重要性とその魅力を若手医師に発信) ②地域医療の充実	①都市近郊型地域医療を目指す ②専門医療から撤退することなく総合医療を導入			238	50					197	91			①急性期医療:機能分化を検討・退院調整機能の強化 ②回復期医療:地域包括ケア病棟の整備・拡充を検討 ③予防・診療・介護・在宅の4部門を連動させる	形成外科を新設		
大津赤十字志賀病院		○	○	○		慢性期を担う ②地域包括ケア病棟で自院のみならず他医療機関から患者を受け入れ、在宅医療への円滑な流れを作っている ③救急・災害医療体制を担う ④グループ病院(大津赤十字病院)との連携	・大津医療圏北部の地域医療を担う病院として総合的機能を求められているが、診療科、外来診療室に限りがあることから近隣の病院、大津赤十字病院との役割分担をより明確にする必要性がある	①急性期医療機能の維持 ②地域包括ケア病棟を有効活用 ③リハビリテーション機能の充実、スムーズな在宅復帰を促す ④在宅医療等の提供体制を充実 ⑤在宅医療と介護の連携促進			50	50	50				50	50	50		①一般入院基本料を算定していた病棟(50床)を地域包括ケア病棟へ変更し、急性期・回復期・慢性期がバランスよく配置されており、地域医療構想で求められる病棟機能の見直しは実施済み ②地域とのよりスムーズな連携をめざし、紹介・逆紹介の仕組みをより強固に	未定		

〈参考〉東近江地域医療機関2025プラン

	診療機能の特徴						課題 内容	今後担うべき役割 内容	具体的な計画										診療科の見直し等 内容	基金の活用 内容									
	現状								2016年(平成28年)					2025年(平成37年)															
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	内容			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床			今後の見込み								
滋賀八幡病院					○	①精神科の急性期から慢性期さらに内科合併症患者に対応 ②認知症患者に対応	①病状、状態の多様化に伴う個別対応が求められ、従事者の専門化と分化が必要 ②1年以上入院者が68%を占め、保護者等の世代交代のため退院、社会復帰が困難なため受入施設整備が必要	①回復期・退院前等患者に対する地域社会自立生活支援の充実(デイケア・作業療法等) ②自立可能な退院患者の住居提供の支援 ③多様な症状や状態に対応可能な病棟の整備 ④近江八幡市内病院との医療連携および災害時の共助体制の推進 ⑤内科医の確保								340~330	①短期入院システム運用開始 ②病棟内小グループ病床(区画)の検討と運用	なし	未定										
神崎中央病院			○	○		急性期から在宅療養が困難な患者または施設入所待ち患者の受入(病態:がん末期、糖尿病、認知症、人工透析等)	①五疾病で在宅療養が困難な患者の受入継続 ②在宅支援機能の強化	回復期、慢性期の継続									32	368	最適な医療機能の検討	なし	未定								
近江温泉病院			○	○	○	①療養病床では慢性期維持期のリハビリを実施 ②回復期リハビリ病床では在宅復帰リハビリを実施 ③認知症病床では短期集中的治療と生活機能回復訓練を実施	①介護医療院転換のための施設基準の確保 ②看護補助者の人材確保	①急性期の後方支援病院 ②在宅療養の継続支援病院 ③認知症対策の継続対応									56	240	56	介護医療院へ転換の予定	なし	未定							
湖東記念病院	○	○				①脳卒中、心血管疾患、救急医療中心の高度専門医療を提供 ②地域の要請に基づく皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科を設置 ③疾患別リハビリの提供	①脳卒中、心血管疾患のセンター機能の拡充 ②消化器内科医の確保 ③医師の高齢化に伴う救急医療継続の危機 ④入退院調整機能の強化 ⑤後発医薬品の普及促進	①脳卒中、心血管疾患、救急医療中心の急性期医療の提供 ②地域関係機関との連絡連携体制の構築と広報活動の推進									76	53	76	53	病床整備計画と医療機器整備計画の策定	心療内科の新設	病床機能の転換が必要な時期(未定)						
日野記念病院	○	○			○	①脊椎・消化器センター、救急医療中心の高度専門医療を提供 ②慢性期機能 ③地域の要請に基づく泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、乳腺外来を設置 ④健診や人間ドッグを積極的に実施	①地域医療機関との連携強化 ②脊椎・消化器センター機能の充実 ③休日・夜間の救急医療体制の充実、 ④人材育成と確保 ⑤在宅医療の充実	①脊椎センターに関する高度急性期の維持 ②消化器センターの充実 ③地域慢性期病床を維持										35	75		40	病床整備計画を策定	なし	病床機能の転換が必要な時期(未定)					
青葉病院					○	長期療養者、神経難病患者および専門的医学管理が必要な患者を対象	①急性期からの病態が多様となり、重症患者が増加 ②在宅・施設入所者の急性憎悪の「慢性期救急」が増加	①慢性期機能の充実 ②急性期治療後の回復レベルに応じ、在宅復帰を支援できる体制整備(一部回復期病床へ転換)を検討													49	49	1病棟を慢性期から回復期(地域包括ケア病棟)へ転換	診療所を病院に統合	未定				
東近江敬愛病院		○			○	①人工透析の実施 ②消化器外科、消化器内科を中心に手術も可能 ③PTとOT10名が在籍し、リハビリも推進 ④健診センターでドッグや乳がん検診等の実施	①医師の確保 ②患者紹介率の向上 ③救急患者収容数の向上	①透析患者数の確保 ②回復期・慢性期機能の提供 ③リハビリ機能・体制の維持													60		94	回復期病床への転換を検討	なし	未定			
ヴォーリス記念病院		○	○	○		①急性期から終末期までの幅広い機能を保持 ②予防事業は、メディカルフィットネスセンターや出前講座を実施 ③介護関係施設・事業所との連携強化 ④ポストアキュートの積極的な実践	施設の老朽化・機能劣化が進むため、病床機能の再編と施設の一部を新築予定	①急性期から終末期までの役割を継続 ②在宅療養支援病院の機能強化 ③ポストアキュートとサブアキュートの役割を維持													50	58	60	20	100	48	新築に伴って急性期および慢性期病床の一部を回復期へ転換、緩和ケア病床の増床	総合診療科の新設	病床機能の転換に伴う新築時期(平成31年度予定)

〈参考〉公的医療機関等2025プラン

*GCU 新生児治療回復室

	診療機能の特徴						課題 内容	今後担うべき役割 内容	具体的な計画										診療科の見直し等 内容	基金の活用 内容																	
	現状								2016年(平成28年)					2025年(平成37年)																							
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	内容			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	精神病床			今後の見込み																
近江八幡市立総合医療センター	○	○	○			高度急性期・急性期医療を提供する地域の中核病院 ・地域周産期母子医療センター ・災害拠点病院 ・地域医療支援病院 ・救命救急センター の機能を保持	①増加する循環器疾患対応への充実 ②周産期医療の充実(GCUの整備含む) ③がん治療区域内完結率向上の取組み ④救急救命センターの機能の継続 ⑤地域の医療施設・介護施設等との連携強化(紹介・逆紹介・入退院支援等) ⑥女性職員のための活動支援(院内保育所の拡充) ⑦医師、看護師の負担軽減(医療事務作業補助者等の増員) ⑧全職員の執務環境の改善(医局の拡充、管理棟構想)	①地域包括ケア病棟への転換により地域の医療機関と連携・支援を推進 ②GCUの整備により周産期医療の充実 ③急変時の患者受入円滑化のため救急医療の充実 ④地域包括ケア病棟の運用や入退院支援室を活用した自宅復帰の患者支援や予防につながる啓発活動を充実																	27	328	48	33	322	48	①GCUの開設に向けた人材育成と人材確保 ②保育所の整備と併せて管理棟の整備を検討 ③がんの区域内完結のため関連病院と協議を行い、課題解決に向けた調整	未定	GCU整備(平成30年度予定)				
東近江総合医療センター		○				①地域包括ケア病床の開設による在宅医療への円滑な移行支援 ②がん、脳卒中、急性心筋梗塞および糖尿病医療を提供 ③救急医療、周産期医療および小児医療を提供 ④結核、神経難病に関する医療を提供	①がんの地域内完結率向上に向け、放射線治療医および病理診断医の確保 ②紹介率、逆紹介率が低水準のため、機能分化および在宅医療へのシフト推進 ③在宅療養患者の急変時やレスパイト入院に対応のため、病院の役割を再検討	①急性期機能の充実(市立能登川病院、蒲生病院との再編のため) ②がん診療連携支援病院として、がん診療体制の充実 ③結核医療の中心的病院の役割、また肺がんの診断率向上 ④神経難病医療拠点病院の機能充実 ⑤救急医療体制の維持、充実とともに災害発生時の受入・搬送を実施 ⑥回復期のニーズに伴うPTの増員確保 ⑦研修医や総合医の教育とともに看護師・薬剤師の実習の受入																		6	298		6	243	55	地域包括ケア病床の維持	未定	地域包括ケア病床設備整備(平成29年度)			
東近江市立能登川病院		○				①救急医療・小児医療の充実 ②指定管理者に3病院ネットワークによる医療スタッフの派遣、遠隔画像診断等による診断の迅速化と共有化の実施	①医療従事者の計画的な充足が必要 ②病床稼働率が低水準なため、80%を超えることが必要	①病院群輪番制病院とした急性期機能の充実 ②退院調整機能を強化し在宅医療の強化 ③救急、小児医療充実のため病床機能を確保 ④肝臓等消化器疾患、眼科および整形外科の手術目的の病床を確保 ⑤熱傷やケロイド等形成外科領域の入院機能の維持																								102		102	病床機能の転換は実施しない	泌尿器科	未定